

◆京都校自己点検評価報告書(2021年度活動評価)

日産京都自動車大学校

※評価凡例：4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

車体特有項目



基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人材像は、当校の「教育理念」及び「教育方針」の形で、明確に定められている この教育理念・教育方針に則り、中期・年度の活動方針を展開、教育活動に反映している。 不定期ではあるが、環境をみつつ見直しを実施している。(2013年に見直し実施) 育成すべき人材像の検討を2017年に京都校内で再確認し、年度計画に育成方策として入れている。 	特になし。	a.ホームページ(教育理念)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 業界のニーズは、先端の整備技術・ノウハウ、また、お客さまへの対応技術・ノウハウを強く求めている。 当校の理念も「時代をリードする技術力、人間力を兼ね備えた自動車エンジニアの育成」であり、描く人材像としては重なる。 特に一級自動車工学科では、業界の変化はとらえて、エーミング調整など特定整備にかかわる授業の導入を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一級自動車工学科の育成について以下の方向で検討をしてきた。 <ol style="list-style-type: none"> ①国家一級資格の取得。 ②自動車の制御や仕事そのものを基礎を論理的に理解し、応用・発展させ自己成長する能力の育成を図る。 ①は2022年3月の登録学科試験については100%の合格率となり、昨年に引き続き100%を継続することができた。 ②は学生フォーミュラ大会はコロナの影響で制約が多い中、静的審査用の資料を提出期限通り提出できている。車両製作は昨年度参加した模擬車検会で指摘された項目を改善している。今年度より車検班を編成し、車検内容とレギュレーション等を紐付けて理解することにより、車検シートに記載されている内容に合格できることを目指している。 また、卒業研究では近隣中学校2校に「技術・家庭」の一環として、ギャザリンク機構に寄る動力伝達や電気自動車の内容を2年生約400人に教えた。 学生が主体的に考え、行動できる学生の育成に成果が出た。 	a.ホームページ (学長メッセージ、教育理念) b.販社アンケート c.学生フォーミュラ参戦資料
車体	3	<ul style="list-style-type: none"> ボディリペア科においても自動運転などの先進技術に対応したセンサー類の取り扱い、調整などの修得の必要性を認識しており、授業ではバンパー脱着、フロントガラス交換などでの注意点など、新たに機器を導入することなく、授業に取り入れられることから行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員は塗装、板金など専門知識は十分であるが教員の先進技術の知識技術の習得を図る必要がある。 2020年度新たに発行された日産NIM教科書を元に、ボディリペア科に導入できる授業の検討と並行して、電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習の受講を検討する。 	d.車体教育課程編成委員会議事録(2021/7、2022/2開催)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	4	<p>・中期・年度の計画を策定する中で社会のニーズにあわせた、以下の将来構想を展開しているが、募集は苦戦。</p> <p>①整備技術の高度化対応⇒「一級課程へのシフト」⇒定員拡大【80人】後、応募者が減少傾向にある。2019年度より75人に変更。</p> <p>②整備技術の多様化⇒カスタマイズ科の創設⇒1期生2期生3期生が優秀な成果をあげて卒業。入学生も増加傾向</p> <p>③海外労働力の活用⇒「留学生の増員」⇒2021年度より国際科(留学生3年課程)を開講し、34人が入学した。2022年度は、2021年度より21人増の55人が入学した。</p>	<p>・予定の募集員数に至っていない【既存の策・レベルでは、整備士志望の低迷に追いつかない】</p> <p>⇒①一級課程の付加価値として、日産インテリジェントモビリティをはじめとする高度先進技術を学ぶ授業を2018年度より順次導入している。また、卒業研究の充実のために、研究の一つとして2018年度より学生フォーミュラーへの参戦準備、2019年は本戦に進んだ。2020年、2021年は新型コロナウイルスの影響で大会は中止となったが、昨年参加した模擬車検会で指摘された箇所を修正した新設計の車両を製作している。</p> <p>⇒③日本語学校へのPR強化と留学生向けの奨学金を設定。在校留学生からの口コミも効果的と認識している。今後、在校生、卒業生から入学生紹介制度を検討する。</p>	<p>a.中期計画(2021～2023年)</p> <p>b.2021年度活動実績</p>

基準2 学校運営

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	4	<p>・理念、教育方針のもとに、中期、年度の計画・方針を明確に定め、展開している。</p>	特になし	<p>※以下は、1-3の資料と同じ</p> <p>a.中期計画(2021～2023年)</p> <p>b.2021年度活動実績</p>

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	4	<p>・学校法人及び日産・自動車大学校(※1)としては、【決定基準】がその意思決定の権限基準を決めており、学校としては、組織図が各権限基準を示している。</p> <p>・各教職員の職務については、業務分担表が示しており、各々有効に機能している。法人本部と当校の役割分担も実効性、効率を考え、必要に応じて見直しつつ運用している。</p>	<p>・「決定基準」の運用について経費処理を軸に内部監査を開始、その結果を受けて、運用を整備していく。</p> <p>・法人内のルールについても、細部、不足なものを明確化し、引き続き整備していく。</p>	<p>a.組織図(日産自動車大学校)</p> <p>b.組織図(日産京都自動車大学校)</p> <p>c.決定基準(日産自動車大学校)</p> <p>d.決定基準(日産学園)</p> <p>e.京都校規程</p> <p>f.京都校内規</p>

※1:日産・自動車大学校～日産の冠を持つ5つの学校(3つの法人=(学)日産学園【栃木校、愛知校、京都校】(株)日産自動車【横浜校】(学)愛自学園【愛媛校】)のアライアンス活動の総称。

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	3	<p>・人事・給与制度は整っており、各制度は必要に応じて適宜見直されている。</p>	<p>・賃金昇給の配分や手当てについて、組合の要求を含め、あり方を引き続き検討を進めていく。</p>	<p>a.就業規則</p>

基準3 教育活動

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 理念、教育方針に沿って教育課程の編成・実施方針を策定することを基本としている。2019年度より教育の質の向上を図るために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーを整理し、それに適った方策を実施している。主に学生の自主性、主体性の育成に重点を置いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度で整理した3つのポリシーの実現に向けて、18年度から3年間、授業、生活指導を通して、学生の自主性、主体性を育成してきた。 学生の自主性、主体性の育成度合いを定量的に判断するためPROG(ジェネリックスキル測定試験)を2019年度より導入し結果分析を行った。しかし、ある程度継続的に試験を実施、分析を行っていないと経年の変化をとらえられないので、今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.2021年度計画【教育部】 b.2021年度PROG結果

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 学科、実習共に、学生が修業年限で到達レベルに達する為に理解しやすいよう、教える内容、教える時間、内容のポイントを体系化した標準カリキュラム、学習シートを保有(実習は実習内容を体系化した実習スタンダードを保有) 実際使用するカリキュラムは各校の教務、教科リーダーが各校の事情に合わせて一定の範囲内でカスタマイズしている。 教科書改訂や企業のニーズなどを定期的にチェックし、毎年、次年度に向けて、改定すべき点を確認し、毎年、日産5校でカリキュラム改善の検討を行い、幅広く見直しを行っている。 新型コロナウイルスの影響で8月下旬から~9月中旬の間遠隔授業を実施した。プリント教材に加えて、オンデマンドの教材導入を行った。対面授業である聞き逃しについては、オンデマンドでの繰り返し学習ができるメリットも確認できた。ただし、学科期末試験前後の補習希望者が増加し、教員負担が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な水準にあると考えている。 更に学校でこそ行える、より本質的であったり専門的な教育、更に学ぶ者がより達成感を得られるような教育内容(特に実習授業)を2017年度に検討した。19年度は検討内容をベースにして、自動車整備科にて実習授業は25人のグループ単位で実施することを多くした。それにより学生、教員とのコミュニケーションが活発し、学生に集中力も向上した。 一級課程はより魅力的かつ人材育成に効果的な教育として、学生へ卒業研究の課題を与え、週1回の研究日を設定している。2019年度は学生フォーミュラー日本大会への参戦を果たし、更に卒業研究論文集も18年度に続き作成した。2021年度以降は、更なる研究の充実を図るために、外部から講師を招き研究手法や課題解決手法を学び、2か月に1回程度報告会を実施することで進捗状況の確認や、抱えている問題点を検討することで、発表時の内容も充実している。 今後、入学してくる学生の学習方法のICT化に伴い、メリットを活かした導入の検討した結果、2022年度からChromebookを新入生に配付し授業等で活用できるように工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.学びの樹 b.実習STD(スタンダード) c.授業計画書 d.3つのポリシー e.2020年度卒業論文集

車体	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディリペア科は、先進技術分野で、板金塗装作業での必要な部分の選定と授業への落とし込みができていない。 ・カスタマイズ科は、FRPによる加工、製品製作は新たな手法での作業も3年目となり、教える教員側のスキルも向上。また、日産自動車から講師を招いてクルマを開発する上でのデザイン授業を導入し、ターゲットユーザーを絞り込むことにより製作する車両のコンセプトも明確になった。 ・製作車両のコンセプトを実現することにより、車両製作の方向性が定まり仕上がりの良い車両が完成した。 ・東京オートサロンでは入賞できなかったが、大阪オートメッセでは出展車両4台中2台が入賞を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディリペア科教員の先進技術についての知識、技術の習得を図る必要がある。 ・基本技術も、現場のニーズの変化に併せ、重板金等から、FRPやラッピングなどにシフトする検討が必要。 ・今年度よりFRP及びラッピングに関しては、外部講師を招いて講座を実施する。今回実施する講座が産学連携授業となるように企画・運営を検討する。 ・ボディリペア科教員にも電子制御装置整備の整備主任者資格講習の受講やNBC講座の受講を検討する。 	d.車体教育課程編成委員会議事録(2020/2開催)
----	---	--	---	----------------------------

点検小項目	評価	ア現状認識・評価等	ウ課題とその解決方向	参考資料
3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価・認定、その先の進級、卒業の基準も明確になっている。3つのポリシーにて、各課程のディプロマポリシーを明確 ・教職員にポリシーの浸透に向けて、遅刻率1.5%に目標をおいて授業、指導を各教員の方策におとして実施した。 ・全体としては目標を満足したが一部の学年において、メンタル面やコロナの影響で長期欠席も発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポリシーにそった人財育成に取り組んでいるが、人間性についての効果度を測定する指標がないため、教員個々の主観にゆだねているのが現状である。 ・PROG(ジェネリックスキル測定試験)を2019年度より導入しているが入学時、卒業時の2回であった。その間の取り組みと効果測定を実施するため、各学年の年度末に追加実施する (2年課程3回:入学時、1年次2月、2年次2月、3年課程4回:入学時、1年次2月、2年次2月、3年次2月、4年課程5回:入学時、1年次2月、2年次2月、3年次2月、4年次2月)。 ・学年終了時に数値変化や改善ポイントのFBと面談を行うことで、人間性の成長具合を確認する。 	a.学則 b.学ナビ c.2020年度教育部活動計画
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポリシーに沿った教育を継続実施。カスタマイズ科については、卒業要件に沿った教育を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件に謳っている人間性の達成度を明確にするために、レーダーチャートを導入した。 ・2019年度より導入しているPROG(ジェネリックスキル測定試験)の測定数値を過去に遡り、修業年度ごとに集計することで人間性の成長具合を数値化して確認する。 ・4年間のPROGデータの数値変化を振り返り、学生本人の成長具合(成長している部分、滞留している部分)をフィードバックすることにより、自分の長所と短所を理解させる。 	c.カスタマイズ科卒業要件

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> すべての法定教科は目標とする資格(国家一級、国家二級、国家車体)に繋がるものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り込んでいる。 2年間、3年間、4年間の中で、上記カリキュラムで履修した内容の理解度確認を定期的に統一試験として実施。併せて直前の国家試験対策でサポートしている。 前年度の結果を踏まえ、週1回留学生の日本語力の底上げ勉強会を行いフォローアップを行った。 2021年度の登録試験結果は、国家一級は100%、国家二級は98.9%、国家車体は97.9%の合格率となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生は日本語能力の低さが大きく影響する。入学時より継続的に日本語能力の向上を図る必要あり。 ハンデキャップを持つ学生への配慮について、学生本人、保護者と連携を密にとり、地域支援センターのアドバイスもいただき検討していく。 必要に応じて、スクールカウンセラーとのカウンセリングを通じて、不安な状況を取り除いていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> a.年間計画(カレンダー、凡例) b.統一試験 c.特訓計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 必要な資格、一定の専門性を有した教員を常勤で確保。 専門性や教授力向上の為の、力量の把握や、教育にも力を入れている。 現在、国家一級資格保有者は、教員の8割。内1人(日産販売からの出向者)はマスターテクニシャンであり、国家1級、日産整備士資格1級などを高難度の資格を持っている。 新技術や業界の新しい仕組み等を学ぶ研修は、日産自動車主催の各種研修に定期的に派遣している。 昨今、企業就職後に自発的な行動ができない、対人関係が作れないなどの理由で早期に離職してしまう卒業生が増加。 メンタルが弱い、コミュニケーションが取れない、人間関係を作れないなどの問題を抱えた学生も入学してくることから、教員向けの学生の精神面を扱う研修として、外部講師を招き2日間にわたってメンタルヘルス研修を実施した。学生それぞれの特性をつかむ目を持つこと、専門家にバトンをつなぐことで、学生の効果的な学習に加えて教員の過度な負担の軽減につながることを期待。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の所属課程のローテーションは、教員の質向上のために更に拡充していく。その為、2016年度からの3年間は、一級資格強化年間と位置付け、受験料の学校負担や受験教員の個別フォローなど学校でバックアップしている。2019年度は2人が二種養成施設にて実技講習を受講し、内1人が19年3月の登録試験に合格、2人が2020年3月の登録試験に合格した。 学生の多様化においては、2021年3月に受講したメンタルヘルス研修で学んだことがらを、生かし、学内全体で連携して具体的な実務に落とし込まれ特性を持つ学生の育成の一助になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> a.教員資格一覧 b.教員研修計画 c.教員研修報告
車体	4	<ul style="list-style-type: none"> 車体課教員においても十分な企業での車体整備経験を有しており、資格も車体整備士資格を取得済みである。 		

基準4 学修成果

点検小項目	評価	ア現状認識・評価等	ウ課題とその解決方向	参考資料
4-1 就職率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・就職(求職)対象者全員に対して、就職を斡旋し、毎年、日産販売会社を中心に100%の実績を上げている。 ・就職対象者全員の、受験状況ならびに内定までの状況をリアルタイムに把握しつつ100%を目指す体制を敷いている。 ・入学当初から整備業界の説明、日産販売会社の仕事内容など、就職を意識させる授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に向けての意識付けと就職が決まったその後の取り組みについて、従来から存在していた、就職へ向けてのステップを見直し、就職への意識付けから受験・内定後の取り組みまでの現在の授業にさらに磨きをかける。 	<ul style="list-style-type: none"> a.就職概況 b.就職進捗表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得において、日産5校で指導計画を共有し統一試験実施等、連携した取り組みをしている。【一級、二級、車体ともに】 ・前年度の結果を踏まえ、週1回留学生の日本語力の底上げ勉強会を行いフォローアップを行った。2021年度の登録試験結果は、国家一級は100%、国家二級は98.9%、国家車体は97.9%の合格率となった。 ・国家一級整備士資格は、前年度同様、4年生にてほぼ毎日1時限目を国家試験対策の学科授業として、早期より対策を打った。更に模擬試験内容も見直し、過去問題の完全理解と難易度の高い(理解していないと解けない)問題等での学習により、合格率は昨年に引き続き100%となった。 ・国家二級整備士資格は、オンデマンド教材を併用しながら、効果的に学習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き増加してきた留学生対策が大きな課題。2019年度登録試験の不合格要因として、日本語の理解ができていないことが大きい。1年生の内にかに日本語、専門用語を理解させて読解力を上げるかが重要。 ・今期より留学生の日本語も含めて育成プランを導入した。また、2021年度には外国人留学生対象に自動車整備に関する専門用語や整備の基礎、また日本で働くための基礎を1年間学び、その後2年課程の自動車整備科と同カリキュラムに進級する国際自動車整備科(3年課程)を設置した。 ・国家一級については、昨年同様過去問題の完全理解させるために模擬試験の見直しを徹底した。また、クラスの高い正答率の問題を低位学生が間違っていないか確認し、間違っている場合は理解できるまで取り組ませた。これにより、昨年に引き続き100%の合格率となった。 	資格別、年度別合格率一覧

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・企業アンケート(卒業生の評価)や、企業訪問時(教育担当者との意見交換など)、就職先での技術大会への選抜状況などを通じて把握している。 ・就職先企業の社内技術大会において、高い評価を得ている(特定メーカー社内大会で全国優勝など) ・卒業生に対するアンケートで、卒業生全体の状況を、企業訪問時(インターンシップ訪問など)、就職先の技術大会への選抜状況などで、個々人の状況・評価を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、企業の教育担当者に卒業生の評価を伺うとともに、弊社教育の方向性について意見交換を行ない、学校が育成する学生像・育成している内容などを共有した上で企業での学生の社会的評価の確認に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.企業アンケート b.卒業生アンケート c.販社懇談会議事録
車体	2	<ul style="list-style-type: none"> ・企業アンケート(卒業生の評価)に車体整備評価項目を織り込む検討がされていたが未だ、車体整備項評価項目を導入できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップでの聞き取りなどを通じて、卒業生の評価確認を行い、より就職先のニーズの合致したスキルを身に付けた学生を育成する。 	a.インターンシップ報告書

基準5 学生支援

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学務部職員と教員とが連携し、学生の支援は円滑に行われている。(求人情報の取得から、教員・学生への展開はスムーズであり、企業別・個人別の進捗状況は、リアルタイムで確認され、学生と連携している。) ・学務部にて、校内のメジャーな就職先の企業ガイダンスの実施。企業情報の提供、企業訪問、会社説明会の展開も行っている。(企業情報を一同に比較できるよう公開し、情報提供も充実している) ・クラス担任との学生個別面談(就職先企業選択など)・学務部職員との個別面談(就職先企業の情報確認など)によるアドバイスを適宜行っている。 ・クラス担任・学務部職員・外部講師により身だしなみ指導、履歴書の書き方から面接試験等のトレーニングまで実施し、体系的に就職教育、指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職意欲に差があるため、従来通り就職先選択の重要性など継続指導していく。また、企業連携として企業から講師を招きやりがい・目標など職業の魅力や新技術の体験などを伝えて職業観を持たせる。個々の企業情報は、個社から情報をいただき、活用しているが、引き続き拡大検討が必要。 ・夏休みの企業訪問は今後も行い、早期から企業側との接点を持たせる。また、学生アルバイトなど更なる企業との接点開拓を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> a.就職マニュアル b.就職活動計画 c.就職進捗表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-2 退学率の低減が図られているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の退学率は75.8%台なり、改善を図るべく各種取り組みを行い、2020年度は3.7%の退学率となった。21年度は学校目標にも年度末の学生総数の維持(休退学率の減少)を明確に定め3.9%とほぼ現状維持ができた。 【2021年度退学防止策】 ・担任、副担任による四半期ごとの学生面談にて、学生の悩み、不安を把握して、アドバイス。 ・自動車整備科では25人グループでの実習により学生と教員のコミュニケーション活性化、更に学生の授業取り組み状況の確認と学年での共有。 ・学校カウンセラーの活用により、学生にメンタル的な悩み、不安の相談機会を増やす。(2018年度より2019年度は1.5倍、2020年度はさらに1.5倍ほど増加)カウンセラーから教員へ学生とのかかわり方のアドバイスも実施したことで教員の知識と対応力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、入学前より精神面での課題を持った学生も入学してくることが多くなっている。入学前に高校での聴き取り、保護者からの聞き取りなどをして、事前情報の入手して適切に対応できるようにしている。 ・担任、副担任は四半期ごとに課題のある自クラスの学生全員との面談を行い、学生状況の把握と成績、生活面での相談を聴くことを18年度から実施し、継続している。 ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、2017年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制を整備しスタートした。更に教職員へは、ほぼ四半期ごとにハラスメントについて注意喚起している。また、年1回のハラスメントアンケートを全学生対象に実施している。 ・今後も上記の取り組みを継続して意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.退学状況

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 各正副担任が、学校側からの定期・不定期の学生面談を行っている。また、学生の相談にも応じている。(教員に対しては研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。) 最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、17年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制としている。 学校のカウンセラーは定期(1回～2回/月)の体制で実施している。 2021年度には、「対応力向上講座(メンタルヘルス)」研修を全教員に行うことにより、対応力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> メンタル等、の問題を抱える学生は、増加傾向にある。学生カウンセリングの増加対応については相談日を2日間に増やすなど、柔軟に対応している。今後も継続的な対応とする。 教員向けの学生の精神面を扱う研修として、外部講師を招き2日間にわたってメンタルヘルス研修を実施した。学生それぞれの特性をつかむ目を持つこと、専門家にノトンをつなぐことで、学生の効果的な学習に加えて教員の過度な負担の軽減につながることを期待する。今後、学内全体で連携して具体的な実務に落とし込むことが必要。 	特になし

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 学生支援機構の奨学金制度、特待生による学費減免制度、遠隔地学生の寮費の減免制度、その他資金融資制度を設けており、希望者は吸収できるキャパを持つ。 分納制度は2016年度より実施。 17年度より就学支援奨学金<給付型>を実施 地域が行っている独自奨学金の紹介を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 分納制度制度、就学支援制度のニーズも高く継続して対応していきたい。 販売会社奨学金のスキームを引き続き拡大していきたい。進学希望でありながら、進学をあきらめてしまう学生(高校生)に対して訴求し、サポートしていきたい。 『学生支援緊急給付金』いわゆる「コロナ影響によりアルバイト減収のため困窮する学生への支援」についても、十分対応していきたい。 入学者に留學生が増加してきたため、留學生を対象とした奨学金に対応していきたい。 	a.募集要項(奨学金/分納制度) b.就学支援奨学金の案内 c.企業奨学金制度の案内
車体	4	<ul style="list-style-type: none"> ポディリペア科(1年制)とカスタマイズ科(1年制)は、高等教育負担軽減対策の非対象ということもあり、自動車整備科2年課程と継続した3年課程、4年課程に移行した。これにより、2019年度に高等教育負担軽減の認定校となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育負担軽減の認定校となったことで、授業減免と奨学金の両対象者はほぼ自己負担なく就学できることになった。今後は制度の認知度をより高められるように在校生にPRしていきたい。 	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 学生の勤怠、学業、生活態度、トラブル等、懸念されることは、主に電話にて保護者と綿密なコミュニケーションを図っている。今までレターで保護者連絡していたが、学校HPを刷新し、保護者向けページを開設。保護者への遅滞ない情報提供を進めている。 ケースによっては、保護者面談、家庭訪問などを行い、学生情報の共有、指導方法、進路相談等について連携をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、学生への緊急連絡の手段として各教員へIPフォン(050)の導入を2018年度より開始。 今後、費用、時間の削減のためにHPからの情報提供をより進めたい。 	a.学生動向報告 b.保護者レター c.HPの保護者向けページ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 保護者との連携体制を構築しているか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 学生の勤怠、学業、生活態度、トラブル等、懸念されることは、主に電話にて保護者と綿密なコミュニケーションを図っている。今までレターで保護者連絡していたが、学校HPを刷新し、保護者向けページを開設。保護者への遅滞ない情報提供を進めている。 ケースによっては、保護者面談、家庭訪問などを行い、学生情報の共有、指導方法、進路相談等について連携をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、学生への緊急連絡の手段として各教員へIPフォン(050)の導入を2018年度より開始。 今後、費用、時間の削減のためにHPからの情報提供をより進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> a.学生動向報告 b.保護者レター c.HPの保護者向けページ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-7 卒業生への支援体制を構築しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 企業の採用担当者から、随時、直近の卒業生の現況確認を行い、問題があれば、個別にサポートをしている。 制度は存在しないが、卒業生から相談があれば、随時対応している。(就職先の相談など) 校友会(同窓会)と連携し、校友会のHPからの卒業生の再就職支援の案内を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、校友会と連携して、卒業生の動向等を把握する中で、支援体制を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.校友会体制表

基準6 教育環境

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう年々の整備・更新している。むこう3年間の中期的な設備投資を計画している。 実習後の車両整備、定期的な機器の点検整備を実施している。 施設、設備の更新については、教育上の必要性に鑑み、中期計画、年度計画を通じて、計画的な更新を行っている。 機器の整備については、専門業者による定期的なメンテナンス、教員による実習後の復元の体制で維持している。 2019年度から実習場の整理整頓と工具室での工具、テストターの管理を開始。工具の紛失を無くし、学生への整理整頓の意識付けを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 投資効率の高い(投資額は少なく、教育効果が高い)計画とするため、教科担当教員と相談の上、優先順位を付けて見直しをしていく。旧型の教材(現行車に対応していない)や傷みの激しい教材の更新を優先的に実施中。 その他の教材のメンテナンスについては、定期的にフォローしていく。 工具室での工具、テストターの管理は、管理者は学年で決めて、徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> a.設備投資計画表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習(新入生研修/国内研修等)・インターンシップ(各課程最終年次)を実施している。各々実績を把握し、教育効果を確認している。(一級のインターンは評価システムがある。その他インターン/学外実習も実施後のレポートで確認を行っている。) 海外研修については、保護者の経済的負担を考慮して2年次の全員参加での開催は2019年度から行っていない。海外へ行きたい学生を募集して、その学生に旅行社数社を学校から紹介する形に変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一級自動車工学科のインターンシップは、養成施設において指定基準があり、それに沿って実施内容が決まっている。一級以外のインターンシップ(内定者研修)では、引き続き企業と連携を取り教育上必要な内容について実施していく。 2019年度に海外へ希望学生に学校から旅行社を紹介する形に海外研修のやり方を変えたが、希望者が少なくツアー催行とならなかった。経済的な課題もあり、学生のニーズも少なくなっていることから廃止している。 	<ul style="list-style-type: none"> a.インターンシップ計画表(一級自動車工学科、自動車整備科) b.年間計画(カレンダー、凡例)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-3 防災に対する組織体制を整備し適切に運用しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 火災に対する体制は整備されている。防災訓練を継続的に実施する事を重視して実行している。 自衛消防隊を組織し、毎年、学生・教職員の防災訓練を実施している。地震に備え防災倉庫も保有している。 学生寮においても、防災訓練を定期的に実施している。 通学途中、その他でバイク・自転車による事故が年間数件発生しているため、長期休暇前では啓蒙活動を実施している。近隣警察署から交通事故防止の講習会を実施して事故の”怖さ・悲惨さ”などを伝えている。 コロナウイルスに対する校内対応マニュアルを作成・整備して運用を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害(大地震)に対する対応マニュアルを完成。その他の災害に対するマニュアルを今後整備していきたい。 コロナ影響により密を避けるため、十分な防災訓練ができなかった。コロナが一定に収まってくることを見込み防災訓練の方法を検討する。 校内での実習車を含める車両には、誘導員の徹底など事故防止に努める注意喚起を引き続き進める。 地震対策として、ロッカー、棚、落下物の固定、危険物の管理などを行っているが、まだ不十分であり、引き続き対策を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a.防火訓練計画・要領 b.防災組織表 c.防災マニュアル。

基準7 学生の募集と受入れ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に 行っているか。	3	<p>・例年通り適正(年度計画を作成し、目標に対する諸活動を明確にしている)に行っているが、近年、目標を下回る結果となっている。特に2021年度は日本人の減少は例年に増して大きく、留学生の確保に努めた。日本人の落ち込みをカバーするには至らなかった。</p> <p>コロナ禍での制約の多い活動となったが、その中でも実績を上げている学校も多く、次年度に向けた方策検討が必至である。</p> <p>【2021年度の方策の実施状況】</p> <p>①HP、LINE等紙媒体に頼らない情報発信を強化。ガイダンスなど対面接触で誘引を図り、人簿獲得と囲い込みを計画したが、コロナにより軒並みガイダンスが中止となり、目指した効果を得ることができなかった。→オンラインを活用した説明会を強化対面接触できない分をカバー(実績:74回<日本人学生35回、留学生39回>)</p> <p>②昨年に引き続き販売会社との連携による応募希望者の更なる誘引活動を行った。⇒販売会社奨学金活用入学も前年8人から14人(企業留学生含む)と増加し、過去最高を更新。</p> <p>③留学生対策として日本語学校との連携強化のため訪問活動を実施。さらに学生寮の充実(365日OPEN・キッチンルーム・シャワールーム等)を活用したPR。入寮している留学生総数:54人/184人。(昨年末入寮状況:/23人169人)</p>	<p>・18歳人口全体の人数が減少している中で、専門学校特に自動車整備士を目指す学生は日本人減少は当面加速すると思われる。</p> <p>・2022年度の留学生入学はコロナ禍で入国出来ていない中、68人の確保が出来た。しかし、2021年度の入国者は極めて少なく、2022年3月の日本語学校卒業者が少ないため例年以上に確保は困難が予想される。</p> <p>【2022年度方策】</p> <p>①留学生に頼らない人材確保 留学生入学の見込みは小さいため、日本人学生獲得の強化を実施。 <近隣エリア> ・近畿圏を中心とする近隣エリアの高校との連携(学校PRやOC誘引など)を強化。 ・販売会社との連携活動の強化。(同行訪問・出張授業など) <遠隔エリア> ・販売会社との連携活動。(現地説明会の実施など)</p> <p>②留学生確保の取組み ・日本語学校とコミュニケーションを取り、入学者や卒業見込み者の把握。進路決定のサポートを実施し、業界の理解を深めてもらえる提案を実施。(状況把握⇒連携強化) ・留学生の紹介制度実施 留学生のネットワークは広く、友知人の紹介の声は多い。留学生の自動車の憧れは強く、自動車の学びや将来日本で働くことを希望する学生に学校を知ってもらう機会を増やしていく。</p>	a.募集方針書
車体	3	<p>2021年度はカスタマイズ科は2台のカスタムカー制作を行い、大阪オートメッセ、東京オートサロンその成果を披露した。制作車両において、関係者からの評価は非常に高く、YouTubeへの動画告知・HP・チラシ送付等で告知活動を実施し、課程の魅力PR。カスタマイズ科への入学者は2020年度27人、2021年度25人、2022年度15人を確保。</p>	<p>カスタマイズ科は一定数を確保できているが、ボディリペア科希望学生は、2022年4月入学者で10人(2020年:39人、2021年:12人)と年々減少傾向にある。加えて姉妹校からのボディリペアへの編入者は1人であった。</p> <p>今後オープンキャンパスでのボディリペア科の体験実習の告知強化(HP動画掲載等)で増加を図る。合わせて姉妹校/校内での進学への告知活動も教育部と連携し継続実施する。</p>	a.募集方針書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・AO入試、一般選考、推薦選考すべて、基準に基づき公平に合否判定を行っている。 ・アドミッションポリシーを整理すると共に、その実現に向けた方策の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①AO入試による入学者が全体の80%となる中、入学前プログラムによる継続学習の強化、モチベーションの維持に一層努める必要があり、教育部と更なる連携を強化する。①昨年留学生入試に指定校制度を導入したが、応募者はゼロであった。指定校推薦基準の見直し・指定校数の見直し・日本語学校訪問告知活動の強化を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> a.入試面接表合否判定資料 b.日本語学校指定校案内文書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当と認識している。(教育内容、世間相場を考慮して改正をおこなっている) ①高等教育負担軽減策の減免金額を参考に授業料とその他学費の見直しをした。(合計の学納金額は変わらない)②留学生の国際自動車整備科1年次の学費は70万円とし、1年目の学費負担を軽減した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済状況の厳しい留学生が多く、日本人のような学費支援制度が少ない中、日本語習得レベルN2を目指した育を国際自動車の1年次に実施する。N2取得者には25万円の学費を免除することで、2年目の学費負担を軽減する。 ・留学生には寮費に2人部屋の単価を適用し、寮の居室に空きがある場合は1人で入居できることとし、生活支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> a.募集要項b.留学生寮費サポート

基準8 財務

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の減少に対して事業計画の見直しを図った。現時点では財務分析からも問題は無いが、今後の収入(募集)前提に備える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集が漸減していることが最大の課題。上述の「学校の将来構想」「教育の質の向上」「学生募集活動」等の成果から、選ばれる学校になれるかが鍵。 	<ul style="list-style-type: none"> a.資金収支計算書 b.事業活動収支計算書 c.貸借対照表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を円滑に進めていくために必要な資源を確保し予算を策定しており、有効、かつ妥当なものになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は予算ベースでの学生確保とならなかったため、今後の中期計画ではコストを抑えた運用と総学生数の維持が必要。早期に募集を伸ばす方策検討が必要であり、事業計画にあった学生数の確保が大きな課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ※以下は、1-3の資料と同じ a.事業計画(2021年) b.2021年度活動計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・適正に行われている。(公認会計士/監事が監査。5月の理事会評議員会で報告。) ・2017年度より経理内部監査を実施。運用の適性化に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> a.監査報告書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・HPに公開(毎年7月までに更新) ・公開内容:資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表 	・特になし	a.財務状況(HP)

基準9 法令等の遵守

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、学校教育法、専修学校設置基準、一種養成施設認定規則、などの該当する法令には準拠しており、適正な運営が図られている。 ・学生の法令順守という意味では、近年社会問題にもなっている車両の違法改造、道交法の順守について、啓蒙活動は強化しているが、交通事故のように目立った減少を見ないものもあるため活動を継続する。また、未成年の飲酒、喫煙についても注意喚起を行っている。 ・情報のセキュリティや、個人情報保護については、体系的な保護、教職員への周知の両面で徹底してきており、トラブルは発生していない。一方、学生に関しても、啓蒙活動を継続しており、ツイッターなどSNSでの学生のトラブルは落ち着いている。 ・薬物乱用においても、京都府薬物乱用防止指導員を3人選出。薬物乱用に関わるセミナーに参加して、学生へ注意喚起を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々学生は入れ替わる為、学生の法令順守に対する啓蒙活動は今後も継続していく必要がある。 ・違法改造、道交法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更には昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為の活動を継続していく。 ・特殊詐欺でのアルバイト名目で「出し子」「受け子」の役割を引き受けてしまわないような注意喚起も行っていく。 	a.国土交通省監査関係書類

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備科、一級自動車工学科は職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。自動車整備ポディリペア科、自動車整備カスタマイズ科については2021年度に申請し、承認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(産学連携)企業数社と連携しての授業実施。また、カスタマイズ科車両製作の支援など、連携は広く、深くなってきている。今後も更に有益な連携ができる企業を模索していく。 ・カスタマイズ科の車両作成、一級自動車工学科の学生フォーミュラ参戦への支援を広く求める。 	a.職業実践専門課程申請関係書類 ※事前には、HP情報公開で確認方 https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> •統一の教務・学務のシステムでは、適切なアクセス権が設定され、不必要なデータへのアクセスが出来ないようにしている。 •教職員には、情報セキュリティや、個人情報保護に関する教育を通じ、情報の重要性、扱いの注意を徹底している。 •外部に対しても、学生・保護者を含め、情報管理方針を明示し、対応を明確にしている。 •学生に対するSNSによる不適切動画の危険性などの啓発活動により、大きなトラブルは無い。 	<ul style="list-style-type: none"> •引き続き、教職員向けの情報セキュリティ勉強会など教職員に対する啓蒙活動を行っていく。18年度はIPフォンの導入とクラウド電話帳の活用により、教員の個人端末(スマホ)への学生情報保存の禁止などの対策を講じた。 •学生のSNS関連のトラブルのリスクの存在は変わっていないが、啓蒙教育及び注意喚起を継続していくことで、問題の発生を防ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> a.個人情報管理方針(HP) b.人事規定(機密保持) c.情報セキュリティスタンダード d.学生個人情報の取扱に関する同意書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> •学校の自己点検は2013年度から、関係者評価は2014年から実施している。第三者評価についても2016年度にJAMCAの実証実験事業において実施。 	<ul style="list-style-type: none"> •2021年度も6月に学校関係者評価を実施。いただいたご意見を学校教育に織込むと共に、報告書を学校HPに掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> a.自己点検結果(HP) b.学校関係者評価結果(HP) ※下記、HP情報公開で確認方。 https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html
	4	<ul style="list-style-type: none"> •2021年6月に、車体系企業・団体の代表の方を学校関係者評価委員に加え、車体学校関係者評価委員会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> •初めて車体系の学校関係者評価委員会を行い、カスタマイズ料でのカスタムカーの車両製作を通しての人財育成などについて貴重なご意見をいただきました。今後、いただいたご意見を検討して教育に織込む。 	<ul style="list-style-type: none"> a.学校関係者評価委員会名簿

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> •教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度からHPにて公開している。 •2019年度にHPを刷新し、より情報公開ページにアクセスしやすいようなページ構成としている。 	<ul style="list-style-type: none"> •2018年度より学校教育の理解促進のために、より詳細な情報として合格率・就職率・学生数等、の詳細情報を開示している。(年度別・個別詳細等) 	<ul style="list-style-type: none"> a.HP(学則・カリキュラム・シラバス等) ※下記、HP情報公開で確認方。 https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html

基準10 社会貢献・地域貢献

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
<p>10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業、関係団体の要望に対して、積極的に保有施設・設備の貸し出しや、当校で可能な講座の提供を行っている。 ・高校・中学からの講演要請等にも、自動車関連企業と連携して、その要請に応えており、その活動範囲は広がりつつある。 ・近年は近隣の方々への学校イベントの告知や誘引を学生が主体的に行っており、地域とのコミュニケーション醸成が図られている。 ・【高校・中学】職業教育への支援(出前講演会、出前体験授業、学校見学受入れ、学内体験授業) ・【企業】地元企業の新入社員に初級整備技術教育の実施 ・【企業】地元企業の整備技術大会への人的・物的支援、学生見学の実施 ・【企業】販売店へ保有教材車両を持ち込んで販売店イベントに協力 ・【団体】整備振興会開催のオートフェスタ等イベントへの人的・物的支援及び学生の参加 ・【団体】板金塗装関係団体の技術大会への人的・物的支援 ・【団体】国家試験会場として学校施設・設備を提供 ・【地元地域】学生が主体的に地元幼稚園に働きかけを行い、学園祭にて園児ミニ四駆体験などのイベントを開催し盛況となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに学園祭等を利用して高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。 ・地元、中学校との繋がりを深めて、中学校での授業の一部を当校学生が協力できるように繋げていきたい。・新型コロナウイルスの影響で対面での機会に制約が多くなっており、計画するも機会を逃すことが懸念される。 	
<p>10-2-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、定期的に教職員とともに地域への清掃活動を行っている。 ・寮では、近隣のボランティア活動(公園清掃等)への参加を寮生に呼びかけて実施している。 ・鈴鹿サーキットで開催されるレースにおいて、オフィシャル活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自発的にボランティアに参加できるような機会の提供を引き続き検討したい。・新型コロナウイルスの影響で対面での機会に制約が多くなっており、計画するも機会を逃すことが懸念される。 	

基準11 国際交流【必要に応じて】

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
国際交流活動を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修は2019年度より全員参加での実施は行っていない。主な国際交流はアジア系留学生との交流となっている。 ・留学生も日本人と同じクラスで学校生活を送るため、自然と日本人との交流が発生するが、昨今、留学生の増加により母国が同じ留学生同士が集まる傾向があり、日本人との交流が進まないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の増加に伴い、留学生と日本人学生との交流をより図り、多様性を受け入れるマインドを育成したい。 ・留学生には、学習を通して日本人と交流する機会を作りたい。(例えば、留学生に日本人学生が日本語を教えるなど) ・2021年度には留学生3年課程を開校、日本人学生との交流する機会を検討するが未実施。 	a.海外研修アンケート結果